

5 鉄道の開通

古くは、徳島から山川町の間は、馬による駄賃や徒手車によって多く運搬されていた。後、牛馬車によって運搬されるようになった。山川町から奥地へは、人の肩や牛馬による駄賃によった。

明治三十年起工の徳島鉄道株式会社（私設）は、板野郡吉野町一条の大串竜太郎が発起で、麻植郡鴨島町の川真田徳三郎が社長となって徳島から鴨島・川島・船戸まで工費百五十余万円で、明治三十三年に竣工した。

明治三十三年八月七日に運輸営業を開始したが、明治四十年九月に政府が買収して国有となった。

船戸駅は、山川町北島の鉄橋の西に小さな台地がある所にあった。存置した期間は、短かく一度、芳川顕正が帰郷して乗下車したのが名残りである。

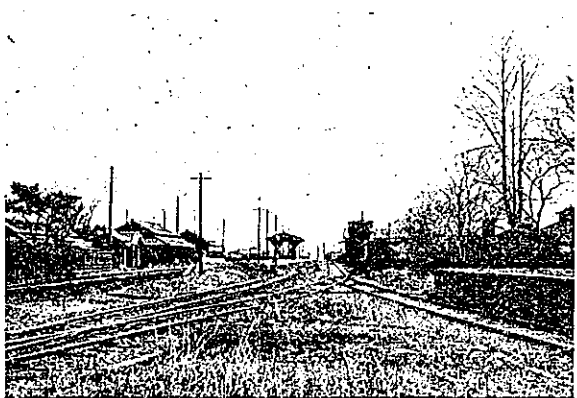
大正三年、船戸にトンネルが開通し、汽車が池田まで延長されたので船戸駅は廃止して現在の川田駅が設置された。帝國鐵道庁神戸管理事務所徳島派出所の所管に属していたが、現在は、四国鐵道管理局の所管となっている。

山川町内の駅名

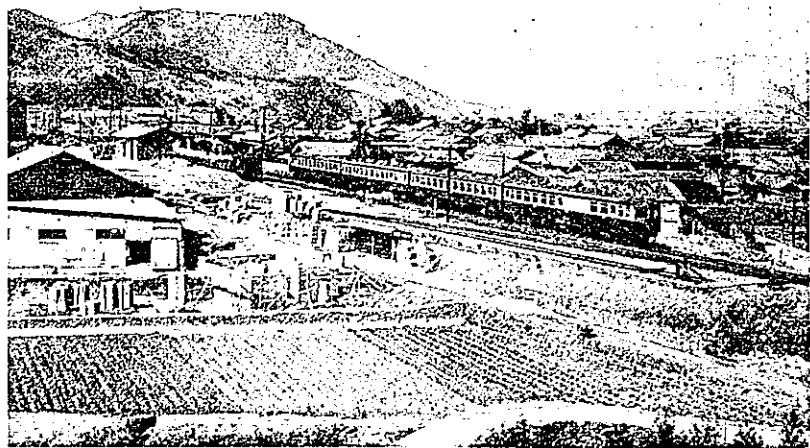
- 。 かわた（旧名 ふなと）川田駅
- 。 やまかわ（旧名 ゆだて）^{あわ}山川駅（昭和三十二年四月一日駅名変更）
- 。 やませ 山瀬駅

鉄道の開通によって、物資の輸送は迅速に多量運搬でき、人々の旅行は容易となり、郷土の文化発展も、めざましいものがある。

川田駅



阿波山川駅



山瀬駅

